

言葉について考えよう

使用教材：「自分を見つめ直して」（六年）

名古屋市立柳小学校

高橋美千代

1 はじめに

随筆を書くことは、自分を深く見つめ直すことにつながる。六年生後半においては、これまでを振り返ったり自分の成長に気づいたりするうえで意義あることといえる。

随筆は、読み手を意識して書くことが必要である。読み手を意識して書く力とは、「伝えたいことに関わる内容を掘り起こし、そのときの様子や気持ちを読み手に伝わるように表現を工夫して書く力」と考える。

本単元では、その力を育てるために、取材と推敲の二つの段階で交流の場面を位置づけることにした。取材の段階では、交流により、伝えたいことに関わる内容を掘り起こすことができるようにしたい。推敲の段階では、交流により、友達の表現のよさを見つけ、自分の随筆に生かすことができるようにしたい。これら二つの交流を通して、読み手を意識して書く力を育てたい。

2 指導計画（全九時間）

第一時	随筆という文章様式を知る。
第二～四時	取材 ①「思いだシート」を基に質問し合う。 ②「書きだシート」に記入する。
第五時	構成・第一記述 ①モデル文を基に構成について考える。 ②下書きをする。
第六・七時	推敲 ①友達の随筆から表現のよさを見つける。 ②互いに声に出して読み、不自然な表現はないか確認し合う。
第八時	第二記述 ・表現のよさを自分の随筆に生かして書く。
第九時	交流 ・友達の随筆を読み、感想を伝え合う。

3 指導の実際

【取材の段階での交流】

第二時

自分を変えた〇〇（言葉、人物、出来事など）を決めさせ、最初と最後で気持ちが変わったように変わったのかを「思いだシート」に書かせた。さらに、伝えたいことに関わる事実を□囲み、気持ちを○囲み、会話を吹きだしで書かせた。

第三時

「思いだシート」を基に二人組で質問し合った。質問されて答えたことを付せんに書いて貼るようにさせた。二人組での会話を二回行い、多くの内容を掘り起こせるようにした。質問の際には、内容を深めるために「相手の答えの一部を繰り返して質問する」ことを意識させるようにした。

＜A児とB児の会話＞

- A わたしを変えた言葉は「また次」です。
B どんなときの言葉ですか。
A 大縄を連続で跳べたときの言葉です。
B なぜ、連続で跳べたんだと思いますか。
A がんばって練習したからです。↓付せん
B 練習のとき、どんな気持ちでしたか。
A いやだなと思っていました。↓付せん

こされたため、「書きだシート」の内容は、より詳しくなっていることが分かる。

【推敲の段階での交流】

第六時

友達の随筆を読み、心の動きが分かる表現を学級で紹介し合った。その後、友達の随筆やこれまで書きためて集めてきた言葉の中から、自分の随筆に取り入れられそうな表現はないか考えさせた。

第七時

二人組で、互いの随筆を声に出して読み合い、不自然な表現はないか確認し合った。C児は、D児の表現「あの言葉のおかげで、私はこんなになんべれたんだ」と

4 おわりに

ころを目に焼き付けて恩返ししたい。」が分かりにくいと話し、D児は、「あの言葉のおかげで、私はこんなになんべれたんだ」というところを見せた。そして、みんなの心に残るようなフレーズをして恩返しをしたい。」と書き直した。

推敲の段階では、表現のよさを友達の随筆や自分がこれまでに集めてきた言葉の中から取り入れるようにしたため、表現を工夫して書くことができた。しかし、無理に取り入れようとして不自然な表現になる児童も見られた。取り入れた後、声に出して読み合い、確認し合うことは、不自然な表現に気づくことにつながった。ただ、なかには、表現の不自然さに気づけず、助言ができない児童も見られた。今後は、多くの表現に触れる機会を増やしたい。

第四時

付せんを貼った「思いだシート」を基に、「書きだシート」に書かせた。質問されて思い出したことを整理するためである。友達の質問によって書きたい内容が掘り起

